



「点検を 重ねて築く 火災ゼロ」

春先は空気が乾燥し、強い風が吹く日が多いことから、わずかな火源から火災となることが多くなります。
日ごろから忘れがちな火の恐ろしさを改めて思い起こし、火災を出さないためには何をすればよいかを、「春の火災予防運動」を迎えて、みんなで考えてみましょう。

4月1日～4月7日

春の火災予防運動

平成三年の一年間に、全国で五万四、八七九件の火災が発生し、一、八一七人が亡くなりました。一日当たりおよそ五人が、火災の犠牲になっていることになりました。特に、冬から春先にかけての火災で亡くなる人が多いのが特徴です。平成三年中をみてみると、四月と十二月の五か月間で、火災による総死者数の五六％に当たる一、〇一八人の人が亡くなりました。また、火災による損害も一、六一四億一、九七五万円、火災一件当たりに換算すると、二九四万円の損失額となります。

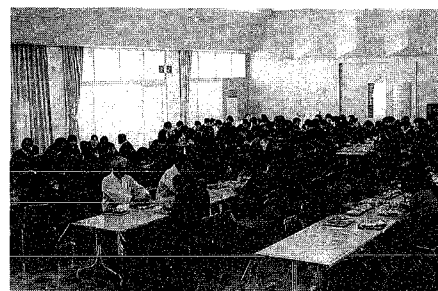


よりよい学校給食をめざし 全校一斉方式で再スタート

昨年五月工事に着手した食堂棟が、この程完成し、三月一日から初めての全校一斉による給食がスタートいたしました。

この食堂棟は、食事を通して好ましい人間関係の育成や望ましい食習慣を身に付けてもらうと、国の補助を受け総工事費(備品を含む)一億四千五百万円程を投じ建設したものです。

規模は、約五百平方メートルで農環センターの多目的ホールに比べ一回り程小さいが、全校生徒が一斉に給食するに十分なスペースを有し、また、暖房はもとより放送機器、ステージ(電動巻上げスクリーン付)も設置し、先生・栄養士による映像、講話を通しての給食、栄養指導が容易となるほか、生徒自身による給食指導も可能となり、しかも、学級というワクをはずすことにより、他学年との交流も図られ食堂での楽しく、規律ある給食活動が一層前進するものと期待されています。



利用面でも、給食の外、卒業式や入学式更には生徒会行事など幅広く利用が考えられこれによってゆとりある充実した学校生活が更に深められると喜ばれています。
建物にあつては、正面の外壁に、燕市在住の彫刻家・霜鳥健二先生(県展無鑑査)の作品(レリーフ)が取り付けられ生徒や先生はもとより、来校されるみなさんの目をひきつけています。
このレリーフは、「バランス……人と自然と……」と題



し、ステンレス、真ちゅう、御影石を使い、絶妙なバランス感覚により月潟の姿を幾何学的にそして造形的に表現したもので、素材が放つそれぞれの形、色、光、配列などが地域(月潟)の活力と若人の手により大なる発展を与えてくれる姿を力強くとらえており、夜間でのライトアップ効果とも併せ、昼夜において学校や村のシンボルとして自慢の種になりそうです。
中学校建設もいよいよ終盤を迎え、グリーンサンドによるグラウンド整備が四月早々にも着工の予定で、八月末頃には体育館も含め、ほぼ完了する見込となりました。

月潟村消防団に 日本消防協会表彰旗 授与

このたび、月潟村消防団は、規律、技能ともに優秀にしてかつ施設を充実し、よく消防使命の達成に努めた優良消防団として(財)日本消防協会から表彰旗を授与されました。

今後、さらに予防消防に徹し、月潟村から災害がなくなるよう、消防団の活躍が期待されます。

